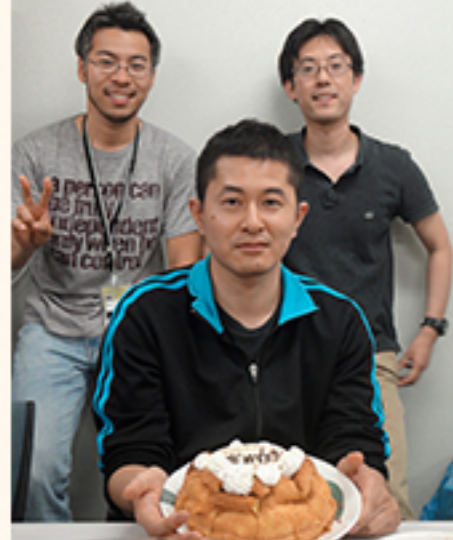


「生理研で研究する魅力」

生体膜研究部門 奥 慎一郎

生理学研究所で研究生生活を始めて、早1年が経ちました。私はアメリカで大学と修士課程を修了し、総研大生理科学専攻博士後期課程に入学しました。最初の頃は岡崎で生活すること自体大変でしたが、最近漸く岡崎にも慣れ、生理研で研究することにも慣れてきました。春は桜が咲き、夏は花火が上がり、秋冬はただ寒いだけですが、岡崎は静かで落ち着いて研究出来る街だと思います。総研大大学院生として生理研で研究するにあたっての魅力のひとつは学部生が居らず、研究室内の大学院生の人数が少ないことです。そのため各学生が個々のテーマを与えてもらえます。また学生が少ないために先生方の指導が学生の隅々まで行き届いています。



生理研では、ほとんどの研究室で生理学の中でも脳科学という分野について研究を行っています。お互い脳科学の様々な分野について研究しているため、研究室間でのジャーナルクラブや勉強会が盛んに行われ、情報を交換し合っています。また情報交換のみならず、共同研究として助け合うことも頻繁にあります。

生理研では総研大生理科学専攻の大学院講義のほかに、毎日のように国内外から講演者が生理研を訪れ、セミナーが開かれていることも生理研で研究するうえでの魅力のひとつです。そのため岡崎という小さな街にいるのに日本国内のみならず世界中の研究者と交流、情報交換できます。このように、生理研で研究を行うことは大変魅力的で、有意義な研究生生活を送れることでしょう。